

# 研究公開文書

2025年3月24日

研 究 名	救急科入院患者の入院関連機能障害と予後について
研 究 の 概 要	高齢入院患者のうち約3割が歩行や移乗動作等の日常生活動作能力が低下すると報告されています。また、この日常生活動作能力に嚙下機能や筋力が強く影響することが報告されております。本研究では嚙下機能や筋力の評価として嚙下関連筋や大腿の筋厚を評価することで、早期から嚙下機能や日常生活動作能力の低下を予測し、適切なリハビリテーションを展開することを目的としています。また、退院後1年の予後についても調査させていただきます。
研 究 対 象	包含基準：救急科の入院患者、65歳以上 除外基準：他科に転科した患者、5日以内に退院、入院前の日常生活活動（ADL）が全介助、リハビリテーションの処方になかった患者
研 究 責 任 者	小田原市立病院 リハビリテーション室 小澤哲也
研 究 実 施 期 間	研究許可日～2030年3月31日
連 絡 先	小田原市久野46番地 小田原市立病院 0465-34-3175